

## ミレニアル世代の倫理と「起業家精神」 ー学生起業家へのエスノグラフィーを通してー

加藤 雄大

本論文の目的は、働き方が「起業化」していく社会のなかで、若者たちがどのようなプロセスで「起業家精神」を獲得していくのかを、社会的に分析することである。これらを知るために、株式会社 **hyoi** を中心とした起業を目指す学生たちのコミュニティ（以下「起業家コミュニティ」という。）を調査対象としてとりあげた。

I 章では、研究の背景として現代の起業風潮を指し示す「第 4 次ベンチャーブーム」の概要を述べたあと、理論的テーマである「労働の構造転換」を概観した。II 章では、調査対象である学生起業チーム「**hyoi**」及び「起業家コミュニティ」の基本的な説明と調査方法について述べた。III 章では、実際の調査期間中の出来事を述べた。IV 章では、研究設問との関係から、3 つのテーマごとに節分けし、それぞれの分析結果を述べた。第 1 節では、起業家コミュニティに集まる学生たちの大まかな人物像を共有するとともに、彼らを 4 象限の理念系に分類することで、「起業家精神」を考察する指標を示した。第 2 節では、彼らの共通点に着目して分析を行った。その共通点とは、起業家コミュニティのあいだで当然あるべき素質とみなされる「熱量」のことである。コミュニティ内では伝統行事となっているピッチ (**pitch**) という場を、熱量を生み出す劇場の舞台として捉えて分析した。第 3 節では、本論文の研究設問である“若者たちの持つ「起業家精神」はどのように構築されるのか”について探究した。

本論文では、起業家精神のエートスと若者たちの「空虚さ」との関係に注目して分析を進めた。空虚さとは生のリアリティが欠落するといった「現代的不幸」を経験している若者たちの苦悩のことである。彼らが持つ「起業家精神」のアプリオリには「自らの人生にある空虚さを熱量と再帰性によって革新していく」ことを目指す倫理があり、その倫理が影響して「起業家精神」が創り出されていくというのが、本論文が提示した仮説である。